

The Mac Aulays, The Mac Beans, The Mac Callum,
The Mac Dougalls, The Mac Duff, The Mac Ewen,
The Mac Farlane, The Mac Gillivray, The Mac Gre-
gor, The Mac Kay, The Mac Kenzie, The Mac Kinlay,
The Mac Kinnou, The Mac Kinto, The Mac Lach-
lans, The Mac Larens, The Mac Laines, The Mac Leans,
The Mac Leods, The Mac Millans, The Mac

Nabs, The Mac Neills, The Mac Phersons, The Mac
Queens, The Mac Rae, The Mathiesons, The Menzies,
The Morrisons, The Munroe, The Murrys, The Ogi-
lvies, The Robertson, The Rose, The Rosses, The Scott,
The Sinclairs, The Skene, The Sutherlands, The Ur-
quharts.

北米合衆國に於ける地理學界 (完結)

寺 田 貞 次

(2) クラーク大學 Clark University

ホストン市の南方、程遠からぬ處、ウオスターに在る、エ
ール・ケンブリッヅ大學と共に北米に於ける古い大學で、殊
に地理學は盛に研究され、大規模な研究室を有して居る、人
文地學者として知らるゝセンプル女史も居るので、非常の期
待を以て訪問した、着したのは既に日没であつたが、取りあ
へず行て見る、幸町が小さいのと、電車の便があつたので、
容易に行く事が出来た、圖書館だけは未だ閉て居たから尋ね
て見る、圖書館の直ぐ南に續く建物が期待の地學教室で、セ
ンプル女史の御宅も直ぐ前である事が知れ愉快であつた、翌
朝は折悪しく大祭日で學校は休業であつたけれども、萬一を

北米合衆國に於ける地理學界

期して再訪れて見る、暗でわからなかつた建物、早朝に見る
眼には如何にも美しく映じ、閑しに劣らぬ堂々さには少から
ず悦んだ、大學正門前、老樹深く茂れる處、ピラ風の住宅が
庭にとりかこまれて並んで居る、其の九四一番地はセンプル
女史の邸である、何ばともあれ訪れて見る、老僕が取次でく
れる、ハンチングトン氏からの紹介、並に先年エザンバラ在
留中、彼地地學協會のニュービギン女史からも紹介狀を貰つ
て置いたので夫をも出す、玄關の直ぐ左側の應接室に案内さ
れる、何處も同じ各種の家具類が處狭き迄飾つてある、日本
の刺繡をした美術屏風を初め、日本品の立派なのが眼につく
日本人との御知合でも多いかと思つた、案の如く女史の「日



グーラー大学

本には知合が多くあります
プリンスス大山は同窓です
私はエンバイロメントを書
く際に日本に参り三ヶ月滞
在しました云々

と話されたので、日本美
術品の多い所以を解する事
が出来た、休日で出かけら
れる際であつたに拘はらず



セブンブル女史の邸宅



Work Room と記し、下に、Charles W. Eliot の一句を記
して居る

‘The very best kind of education is obtained in
doing things one’s self under competent direction
and with good guidance.’

階下が学生の研究室、二階は教授の研究室、三階は大講室
と特別研究室になつて居る。

階下は玄關初め二小室その他一帯の大部をなし、学生の研究
室である、中央に通ずる廊下の兩側を書棚又は掛圖を利用し
て、數小室に區劃し、一脚又は二脚の机を備え、学生の研究
に供し、東南隅の一室を製圖室、(イ)次々地圖室(ロ)に充て

特に私の爲に研究室を案内
して下した、折よく助教授
のジョーン氏が來られたの
で、同氏に案内を依頼して
下す、研究室前に記念撮影
御別する、挿畫は其の撮影
右はセンプル女史、左はジ
ョーン助教授である。

研究室は前に申した様に

中央の廊下には標本箱を備えて居る、製圖室(イ)は製圖板並

に Electric tracing table を置き、

壁には Dr. Herman Hoock 製の

製圖順序標本圖 Wie ein Schul-

van Karte entsteht 十葉を掲げ、

周壁には硝子戸棚を備え、製圖用

品並に紙類を保存す、廊下の標本

箱は地圖箱並に經濟地理參考用標本箱で、地圖箱(ハ)は全部

合屬板にて製し、上下二部に分ち、上部は掛圖を横にして保

存し得る様に設備し、下部には多数の抽出を備へ、小形圖又

は折圖を蒐集す、歐洲の研究室に見ざりし形式である、地圖

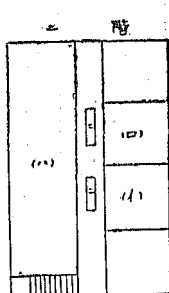
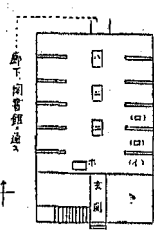
箱(ニ)は歐洲の研究室に普通見る形式で、多数の抽出を有し

箱の上面は卓子に利用し、地形圖を初め、各國の地圖を蒐集

す、(ホ)は抽出付の丈の高い箱で、經濟地理教授用產物標本

を保存して居る小形の標本ではあるけれども重要品を網羅し

小綺麗によく蒐集されて居た。



二階は教授室、室は廊下の

兩側に並んで居る、(イ)は學

長の Charles F. Brooks 教授

室、中央に文机を、周壁に書

棚を飾る事他と異ならない、教

授は年齒尙四十前後と思しく

丈高くすなりとして、眼光凛々しく、血色のよい容貌、元氣

北米合衆國に於ける地理學界

よく當教室地理に付て説明して下した、次の室(ロ)は案内の

勞をとられた Clarence Fielden Jones 教授の室、前室同様

中央に机を、周壁に書棚を置き明るい日あたりの極くよい室

である、教授は丈の高い、優しい風貌の好紳士、年齒尙若く

經濟地理を専攻して居られる、殊に南米は其の研究地、之に

關する著書少くない、以上兩室の向い側(ハ)は一帯の教室で

地圖など掲げてある他、特に注意を引く設備を發見しなかつ

た。此等兩室の間に通ずる廊下には、多数の抽出を備ふる大

な地圖函(ニ)を備え、各種の地圖が蒐集されて居た。

三階は一帯の大講堂をなし、室の四隅に各一小室を備えて

居る、新築日尙淺いので、其

の設備は未だ完備して居らず

大講堂の如き、敢て立派と云

ふ程ではないが、白い天井に

組板の床、周壁に地學關係風

景寫眞を掲ぐる、寧ろ高尙な講堂たるを悦ばしめた、四隅の

室はまた利用が完全して居らず、(イ)(ロ)の兩室が使用され

て居た、(イ)は W. Elmer Ekblaw 教授の室、當學發行の

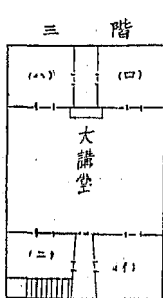
雜誌、經濟地理「Economic Geography」の編集室を兼ねて

居る、折悪しくクープ・コード方面御旅行中で面會の榮を得

なかつた、(ロ)も同じく經濟地理の研究室に充てゝあるが未

だ準備中であつた。

要するに、此の教室は亞米利加では各大學共に地學の研究



設備不完全で、吾人に満足な與へなかつたのに反し、雲泥の差ある新研究室として、設備と云ひ、建築のぐはいと云ひ、申分のない研究室である、且其の規模に於ても却々に大きく新設目尚淺き爲め、設備は未だ完全の域に達して居なかつたけれども、完備の曉には誠に便利な研究室になるであらうし當研究室に關與して居る教授の如きも非常に多く、學長で自然地理擔當の Wallace W. Atwood 氏を始め、人文地理の Ellen C. Semple、農業地理專攻の Oliver E. Baker、氣候學の Charles F. Brooks (Associate Prof.)、教育學の Douglas C. Rigely、經濟地理の Clarence F. Jones、植物地理の Homer L. Shantz、工業地理の Olaf G. Jonasson、經濟地理の W. Elmer Ekblaw、並に地圖學の Guy H. Burnham 諸氏、尙此他に歴史、地質、經濟學、社會學等の教授を加えると、其の數は實に廿名に達し、歐洲の地學教室、並に從來觀察した亞米利加各大學の地理科に見ざる巨數であり、又地理の授業の如きも Primarily for Undergraduates に向つて、一學期に一、二、三、四年を通じて經濟地理(農業及工業地理)三、四年には地質通論、礦物學、經濟地質學、氣象學を課し大學院の方には人類、地理の通論、北米合衆國の歴史地理教育論、地理學史、地圖學等を、その他地理のセミナール、野外演習、地學の教育上の研究等、地理研究上周到に課せられて居る、此の點も歐米の諸大學に勝て見える、英國の某教授が此の教室を以て、世界第一の大研究所と評し、其觀察をす

められたのも過言でないと思ふた。

斯く、亞米利加では一方に地學に重きを置かず、講座すらない處も少くないにも拘はらず、又一方には極端に大規模な研究室を有する大學もあるのを見ると、何となく不統一な感に打たれざるを得ない、然かし、よく考へる時、其處が亞米利加に於ける地理學發達の道程を示すもので、反て面白い點と申さればなりませぬ、從來は實用にのみいそがしくて、純學問的な地學の方面迄進む餘裕のなかつたのが、基礎的研究の進歩は此の地理學研究の域に迄進み、漸く之が必要をも認むる様になつて來た事を示すもので、非常の興味を以て觀察致した、果せるかなクラーク大學の一覽 Clark University Bulletin (1925-26) を觀ると、

(General statement) During the last few years the American people have been awakened in a remarkable way, to an interest in Geography. Since the period of isolation in national development is passed, the have come to realize, almost suddenly, that the U. States of America is one of the leading nations of the world and vitally interested in foreign countries and their problems.

と記して、該大學が地理學の大研究室を新設し、斯學に力癪を入れる様になつた理由として、米國が地學の必要を認め、て漸くめをめた結果である事を明言して居り、進で

This awakening, and the consequent broadening of our

horizon, have forced us to recognize that we have neglected in this country the scientific study of geography. と記し、從來米國が地理の科學的研究を等閑に附して居た非を悔ひて居る、何事にあれ、大規模を期する合衆國の事であるから、斯る覺醒の生じた以上、續々斯る大規模の設備を施し、研究する様になる事は推知し得る事で、將來に於ける米國の地理學界は大に見る可きものがあるに至るであらうと考へて居る。

然かし、今日の處では、未だ歐洲で見る様な堅實な研究と申すべきものが少なく、地理の理論にせよデービス氏一派の地形に重きを置く地學が、さもなくば獨逸で發達した、ラツツェル一派の地理學で、クラーク大學のセンブル女史、エール大學のハンチングトン氏の如き其の著しいもので、前者は Influences of geographic environment として、後者は、Principles of human geography としてあらはれたに過ぎない、斯く學者の中には純理論を研究する向も出て居るけれども、前から申して居ります様に國柄が新開であるのと、地産の豊富な實利的の調査や研究に多忙なので、地理の如きも徒に理論にのみ走て居る暇がない、大勢の向ふ處は、矢張り實利方面に向ふのが當然であります、夫で實用に最も近い地理が最能く研究されて居る様に觀察される、實用に最近の地理と申せば、或は語弊があるかも知れないけれども、矢張り經濟的方面、商業工業的方面に關する研究を主題とする地理、

北米合衆國に於ける地理學界

換言すれば經濟地理、將又商業地理でありませう。

夫で、北米合衆國の大學は地理學と云ふ獨立した講座は設置して居ないにせよ、經濟地理と云ふ學科だけは、設置して居ない處は殆どない、クラーク大學シカゴ大學の如き地理學の盛大な大學は勿論、コロンビア大學ペンシルバニア大學、カリフォルニア大學の如きは、地理の各方面共研究されて居ますが、其の他の大學でも、其處にはたとへ地學が設置されてない處であつても經濟地理だけは必ず之を課して居ます、即ちクラーク大學では、Graduate School を初め、Undergraduates 並に Home study courses in geography の各部に於て盛に研究されて居る、試に一九二六—七年度の教授要目を見ると、

Primarily for Undergraduates につて

第一年、第一學期、地理學通論、

第二學期、北米の地理、歐羅巴地理、

第二年、三年、及四年

第一學期、經濟地理(農産)

第二學期、經濟地理(工業)

第三年、或は四年、(一年間)

地質學通論、氣候學、礦物學、經濟地質學、など

Graduates につて

第一學期、氣候學及世界の氣候 宇宙物理、

土壤及植物地理、統計學、土地經濟、

歐羅巴の農業地方、南米の經濟地理、人類地理通論、北米合衆國の歴史地理、

北西歐羅巴の地理、地中海地方の地理、

第二學期には、Regional Physiography.

北米の氣候、北米農業地理、工業地理、世界商業地理、南米の商業に付て、教育上に於ける地理、地圖學、地理の歴史等、

右の如くで、地理に關するあらゆる方面を研究し、殊に經濟地理に重きを置いて研究して居る。次に、

シカゴ大學出版の Announcements XXXI 第六號を見る

と、Undergraduateの時間表を初め、其のパチエラーを得んとする者、マスター又はドクターを得んとする者の爲め、各方面に渡り詳細に研究する様になつて居る點は、クラーク大學と異らない。此の二大學の他、コロンビア大學では、其の School of Business (Columbia University Bulletin of Information Announcement (926-27) に地理の Graduate 及び

Undergraduate courses があり、其の廿九頁には、地理セミナール室は第六階に在りとして、經濟地理及び外國貿易に於けるセミナールに備ふ註を加へ、講義表には、經濟地理、北米の經濟地理、ラチンアメリカの經濟地理、亞細亞の經濟地理、歐洲の經濟地理、アフリカ及亞洲の經濟地理、經濟的及び社會的發達上に於ける地理的事項、北米、ラチンアメリカ、亞細亞、歐羅巴アフリカ及び亞洲の各地方誌、經濟

地理及び外國貿易に於ける問題研究等と記し、全部が經濟地理の研究である。

カリフォルニア大學では、(University of California Bulletin Departments of Berkeley (926-27, P.114-116) 以下兩級に分ち、Lower Division では、

地理學通論、氣象學概論、地圖研究、Upper Division では地理野外演習、地形の野外研究、北米、南米、歐羅巴の地理カリフォルニア地理、經濟地理(生産地理)、地理學理論、

此の他、Graduate Courses として、地理の歴史並に人文地理に關するセミナールも置かれて居る、地學に關する各種方面が研究せられて居るが、經濟地理も決して等閑には附して居ない、自分の訪問致した際、ザウアー教授の經濟地理を拜聴したが、重要物産に關する研究で、果實の御話であつた、カリフォルニア州は、世界に於ける果實の大産地だけにふさはしく拜聴し得た。

カリフォルニア大學支部では、Letters and Science 及び Teachers College に分れ、前者には、地理は上級部に課せられ、之を二部に分け、一部は、地理のインツロダクション即ち地理の要素、二部は宗教及び人口、並に文化の分布となつて居る、Teachers College では、一學科として、之を課し、下級には

近世地理の通論、地方誌の研究、氣象學通論、經濟地理、應用氣象學、

上級では、

野外演習、ロザンジェルススの地理及其附近の地圖研究、氣候學、天産物研究、北米、ラチンアメリカ、歐羅巴、亞細亞、カリフォルニアの地理、地理教授法、亞米利加史の地的研究、政治地理上の問題、

となつて居り、經濟地理と銘うつたる講義の他、野外演習の如きも、或はロザンジェルス地方の面積の研究、即ち其の地の商工業、交通鐵道港灣等を含める研究をなし、各大陸の地理も、其の註譯を見ると、重に經濟活動に付ての研究、例へば亞細亞大陸の地理なれば、太平洋の西端に在る諸國の社會的及び經濟的のコンナシヨンを決定する地理的問題の研究と書いてあり、其の經濟地理に重きを置いて居る事が察せられる地理學の研究が盛に行はれて居る諸大學の様子は、大畧右の如くであります、更に進んで、地學の盛でない大學の様子を觀察しますと、

紐育のコロンビア大學では、其のビジネス・スクールと師範部に地理の講義があり、ビジネス・スクールでは、ラッセル・スミス教授が經濟地理を擔當して居られ、紐育大學では J. E. Woodman 氏が毎週二時間經濟地理を講じ、エール大學では人類學及び社會學の部に經濟地理があり、Hanemeyer 氏之を擔當、毎週三時間づゝ、人間と自然環境との研究、環境が人間の經濟活動に及す影響、天然物、工業及び商業の系統的的研究をやつて居り、ペンシルバニア大學では商學部に於

北米合衆國に於ける地理學界

て、經濟地理を置き、Williams 氏が之を擔當して居り、シエナホプキン大學では、地質學部中に商業地理をおき Mathews 教授之に任じ、自然現象と商業及び工業の關係、世界の商品と商業關係と云ふ題下に講じて居た、南加州大學では、Clayton Carust 教授之に當り、毎週二時間、主に農業地理並に世界の交通路に付ての研究を講じて居た。

斯く經濟地理の研究が盛であるから、従て斯學の大家も少くない、以前にはハーバート大學の教授であつたブルガム氏など表はれて居り、其の著、商業地理の如きもよく用ゐられたものであるが、今や既に退隱、現今はコロンビア大學のスミス教授等が知られて居り、其の著の如きも、經濟地理に關する發表が最多く、夫の人文地理概論として知らるゝハンチングトン氏の著の如きも、名目こそ人文地理ではあるが、其の内容に於て立派な經濟地理と稱する事が出来、コロンビア大學のスミス教授著 Industrial and Commercial Geography は素より、尙岡氏の著 North America 並に Human Geography も知られ、ペンシルバニア大學教授リイリアム氏が、ハンチングトン氏と共に出せる、Business Geography シカゴ大學の W. D. Jones 氏の Introduction to Economic Geography 自分は訪問の機を得なかつたが、ワイズマン大學の V. C. Finch 教授著 Commercial Geography of the United States を、同大學の P. H. Whiteck 氏の K. C. Fench 氏と共に、Economic Geography 並に Economic

摘 錄

○ 清水文彌 郷土史話の一部 發行所 邦光堂

Geography of South America, エーハ大學地質學の Gregory 教授並に Kelle, Bishop 合著の Physical and Commercial Geography 等名著少なからず、極く通俗な經濟地理又は商業地理と銘打つたる出版物に至つては、殆ど枚舉に遑がない、各大學などで發行する報告類に掲載する論文の他、クラーク大學では近時同大學に於ける經濟地理研究の機關として、雜誌 Economic Geography を發行し、一昨年(一九二五)の創刊、W. Elmer Ekblaw 教授主幹の下に、年四回發行されて居り、著書や雜誌計でなく、經濟地理に關する地圖も段々と發行され、シカゴ及び紐育の Rand McNally 社より出版する Commercial Atlas of the United States(1924)を初め、マシントン府の印刷局 Government Printing Office 出版の Statistical Atlas of the United States. 又シカゴ市の A. J. Nystrom & Co. 出版の Nystrom international trade maps 等何れも好參考圖であり、殊に最後の Nystrom international trade maps の如きは、小形の圖であるに拘はらず、經濟地理研究上好參考書たるを失はない。

尙米國の地理學界としては、進來の大學地學教室以外に、紐育に在る、地學協會を初め、各地の地學協會、ワシントン府にありて、National Geographic Magazine を發行する、National Geographic Society の如き、フィラデルフィア府に在る Commercial Museum の如き、紐育、シカゴ等に在る、地圖製作刊行所等地理關係機關に付て述べる必要もあると思ふが、此等は後日に譲り此の稿を終ることとする。(完)

古い家屋はこれを建て直す場合に柱などのホツを見ると、そこに其建てた時代の年號十干十二支が記されてある、那須八郎時代(下野那須)のオサ受の圖面が未だに残つてゐるが、これによると遠い源平時代の昔から今日の結構の家があつたらしい。昔の家は柱は斧で削りつばなし、又ちよう能で打ちばなし、材木は主として栗或は杉、梁は杉の丸身の角、屋根は草ぶきが多かつた、そしてその屋根の葺方は一般に冠り屋根名主以上はセカイ造り(注この建方江州の北から北陸に共通する)割元庄屋及郷土は二重セカイ造を許されたものである(慶安時代には寺でも民家でも皆小さかつた、そして極く古くは堀つ立て、礎石を使用するやうになつたのは徳川の初め頃からであらう、大きな家を建てるやうになつたのは天保あたりからの事である(拙著近刊日本民家史参照を乞ふ)。我が那須地方では昔から渡邊といふ苗字の家では家の屋根に「烟出しを付けない風習が残つてゐる(屋根概説参照)、これは昔源頼光の時代に、羅生門で鬼を退治した渡邊の綱が、折角とつた鬼の片腕を再び鬼に取りかへされた有名な話から來た迷信で、鬼がこの屋根の烟出しから逃げたからである。こんな譚から渡邊姓の家では烟出しを付ける事を忌んだらしい。(筆